

令和6年1月5日

## 意見書

### 1 団体概要

- (1) 団体名 一般社団法人横浜港振興協会
- (2) 構成会員数 505社
- (3) 設立年 昭和28年7月7日
- (4) 設立趣旨 横浜港の振興発展に向けた諸事業を推進することにより、横浜港ひいては地域経済の発展と市民生活の向上に寄与することを目的とする。
- (5) 主な事業活動 (1) 横浜港の振興対策に関する調査・研究とその実現に向けた関係諸団体との連携・協力事業  
(2) 横浜港の利用促進に向けた船舶、貨物の誘致及びPR事業  
(3) 横浜港の振興宣伝を広く展開する市民と港を結ぶ事業、情報誌の発行、情報発信事業など

### 2 山下ふ頭再開発に向けての意見

(まちづくりの方向性や再開発を進めるにあたって検討すべき事項等)

別紙のとおり

2024年1月

## 一般社団法人横浜港振興協会 ～ 山下ふ頭再開発検討委員会への意見書 ～

### 1. 横浜港振興協会の概要

横浜港振興協会は、昭和28年（1953年）、横浜市および横浜商工会議所の呼びかけにより設立されて以来、会員や関係者の皆様方に支えて頂き、令和5年7月に創立70周年を迎えました。

港湾関係団体や企業を結集して横浜港の活動を振興する目的で設立し、10年ほど前まで港湾関係者のみで活動して来ましたが、さらに横浜市全体で横浜港を活性化させ振興を図る目的で各区の町内会・商店街・青少年団体・ホテルなどのご参加を頂き、現在では、多様性に富んだ会員数500社超を有する体制となりました。

港には、「国際貿易」、「港湾産業」、「観光・憩い楽しむ」の三つの面があります。これらを有機的に結び付け、ミナト町ヨコハマが発展を遂げるのが当協会の任務です。具体的には、港内見学会や港に関する講座は勿論、客船の誘致・受入れ、大さん橋国際客船ターミナルの指定管理、八景島マリーナの運営、臨海部の賑わい創出、港の広報宣伝など広範な事業を実施しています。横浜港振興協会の現在の活動は他の港に見られないほど活発です。

### 2. 山下ふ頭の歴史と共に歩んだ当協会

山下ふ頭は、戦後の接収された瑞穂ふ頭の代替施設としてばかりではなく、戦後経済を立て直し、我が国の国際貿易を発展させる期待を背負って、昭和28年（1953年）に建設が始まり、我が国最初の国際貿易を担う近代的大規模ふ頭として全国に先駆けて10年後の昭和38年について供用開始され、現在に至っています。

山下ふ頭の建設に着手した昭和28年は当協会の創設の年であり、このふ頭の歴史は当協会の歩みに重なります。共に横浜港の発展に大きな寄与を果たしてきており、今後も切っても切れない関係といえます。これまで、当協会含め横浜港の関係者全員で港の船混み対策としての効率的な利用や、臨港鉄道のふ頭乗り入れなど、管理運営に両者共同で工夫を凝らしながら我が国の高度経済成長を支えて参りました。まさに山下ふ頭と当協会は共に歩んできており、港の振興を担っている当協会は、今後も山下ふ頭の再開発に積極的に携わっていく所存です。

当協会は港関係者ばかりではなく商店街・町内会・ホテル・金融機関などの会員も有しており、様々な有益な意見具申が可能です。第1回の山下ふ頭再開発検討委員会で、山下ふ頭の再開発は港の機能を十分に生かすことが重要との方向性が打ち出されました。当協会はその方向性に沿って、将来にふさわしい提言を行っていきたいと思います。

### 3.山下ふ頭再開発に関する意見と要請

以下に掲げる項目について委員会で審議して頂きたく掲載させていただきますので、ご検討頂くようお願い致します。

- ① 山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を鑑みた開発にして頂きたい
- ② 横浜港の発展の歴史を踏まえた開発として頂きたい
- ③ 横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させて開発として頂きたい
- ④ 山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定して頂きたい
- ⑤ 安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論して頂きたい
- ⑥ 横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることとし、委員会の方向性として最初に議論して頂きたい
- ⑦ 横浜市の経済を活性化する方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置づけと国際貿易に寄与する視点を最重要視して頂きたい
- ⑧ 憩いの場としては、市民が自由に使い樂しめ、賑わいが創出できるような空間を検討して頂きたい
- ⑨ 事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮した後決定して頂きたい
- ⑩ 国際交流や日本文化を発信するような機能を検討して頂きたい
- ⑪ 100年前の関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討して頂きたい
- ⑫ 障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れた開発として頂きたい
- ⑬ 周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討して頂きたい  
また、現在1か所しかない進入路の機能向上についても検討をお願いしたい
- ⑭ 臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい21地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース（BAYWALK YOKOHAMA）や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい
- ⑮ 横浜港へさらなる客船誘致を推進する観点から整備を検討して頂きたい

#### 4.委員会に参加するにあたって

当協会の使命である“横浜港の振興発展”を図るため、山下ふ頭の再開発に際しては計画段階から意見を具申し、積極的に事業に関わって参ります。当協会の体制として、「検討部会」を協会内に設置しました。本検討部会を通じて会員の意見を広く吸い上げて、当協会の意見を全体としてまとめて、提言して参ります。

以上、山下ふ頭再開発検討委員会に参加するに際して、現在の当協会の意見とさせていただきます。なお、今後当委員会の進展に従って具体的な提言を都度委員会に上程させていただきますと思います。